

◎2018年最後の説法会において  
比丘サンガご慶賀



2018年12月9日(日)午後2時より、新宿801教室において、大長老による平成30年度最後の説法会では、大長老をはじめ、吉祥なる定礎儀式のためにミャンマーからご来日くださった「尊い比丘サンガに尊敬合掌する特別な日」として、儀式が行われました。

大長老をはじめとして4名の比丘サンガによる、祝福と護経、厄除経が唱えられた後、偉大なる過去七仏の威力によって、この上座仏教修道会新宿本部の土地・建物、参加された皆様の身体、皆様の住んでいる土地・建物まで、恐れや危険、災害がなく、安楽で平和な土地・建物、浄らかな場所になるように、「アバヤーナンタラーイカ カンマワーサー」“Abhayānantarāyika Kammavācā”というお経が唱えられました。

つづいて、3名の比丘サンガによるご説法を賜わり、大長老の通訳を通して尊い教え戒めを賜りました。

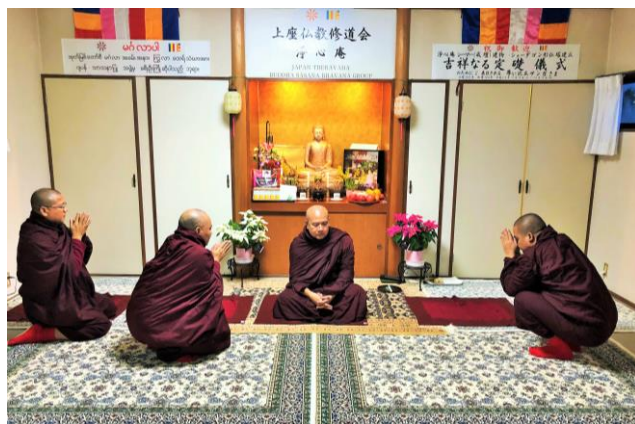
1. Bhaddanta Paññāloka 比丘 「4つの楽」
2. Bhaddanta Janinda 比丘 「4種の人」
3. Bhaddanta Supanyinda 比丘 「自分の心を治す」

最後に、大長老のお導きで、比丘サンガの前に、参加者全員は、積んだすべての功德を回向して、「お釈迦さまの教えが、なくならないで永く存在できますように」というパーリ言葉を念じ唱えて儀式は終了いたしました。

平成30年最後の説法会は、大長老をはじめ、尊い比丘サンガに、尊敬合掌する特別な日となり慶賀の至りでございました。このような得難い機会を作ってくくださった大長老をはじめ比丘サンガに心から感謝申し上げます。  
来年度の説法会は、大詰めとなって参りました「業(カルマ)について」、前回の「不還者の心とその対象」から「阿羅漢の心とその対象」へと引き続いて説法が行われます。  
みなさん、どうぞ楽しみにお待ちください。



◎ミャンマー比丘サンガ3名ご帰国



2018年12月12日(水)午前6時30分、ミャンマーの比丘さま3名は、約1ヶ月の間に日本で予定された「浄心庵シーマー(戒壇)建物・シェーダゴン形仏塔建立吉祥なる定礎儀式」をはじめ、お釈迦さまに関係があるすべての儀式を無事に成し遂げられ、ミャンマーにご帰国されました。

浄心庵精舎を出発される前に、瞑想堂で浄心庵ブツダと大長老に向かってオーカーサ礼拝をされた後、お見送りをする会員有志たちのオーカーサ礼拝を受けて、祝福の偈文を唱えてくださってから、大長老と共に成田空港へ向かわれました。



搭乗手続きを終えた後、国際線出発口から搭乗ゲートへ向かう階下のエスカレーターがあり、出発ロビーのガラス越しから、旅客者をお見送りができる場所で、ミャンマー人、日本人たちは仏教旗をはためかせながら、3名の比丘様をご通過されるのを待ちしておりました。その時、3名の比丘様は、師である大長老に気づかれ、自分たちの荷物を床に置き、丁寧に尊敬合掌礼拝されました。

その浄らかな光景を最後にして、この日の夕方にはヤンゴンの空港に無事到着したとのご連絡がありました。

今回来日された比丘様は、大長老の数えきれないほどのお弟子さまの中から、3名が選ばれ、ミャンマー比丘サンガを代表して来日されました。大長老をはじめ、3名の比丘様、比丘サンガの大いなる徳と恩に心より感謝申し上げます。

三宝と比丘サンガの徳と恩を念じて、この日本の地、浄心庵精舎の土地の上に、純粋なお釈迦さまの教えが永く存在するための「シーマー(戒壇)・仏塔建立」が実現するよう、大長老のお導きのもと、三帰依と共に八正道(戒・定・慧)を真摯に実践しながら、日本上座仏教修道会会員一同は、正精進してまいります。

※「比丘サンガ26日間のご活動」についての報告は、以上です。